

2023 年春季 参加報告書

参加プログラム：CDC(スタディーツアー)

参加時の学年：2年、学部：人文、学科：ヨーロッパ文化

私は、海外へ一度も行ったことがなく、他国の人と関わり自分の視野を広げようと思い留学することを決めました。ホストマザーはトルコの方でした。とても優しく、毎日夕食時には「今日は何を勉強したの?」「アクティビティはどうだった?」などドイツ語で質問してくれて、間違った表現があれば教えてくれました。日常的にドイツ語を使う機会を与えてくれたので、リスニング・スピーキングの面でより成長できたと思います。わからない言葉は英語で説明してくれたり、わかりやすいドイツ語で言い換えてくれたので一度も翻訳機を使うことなく意思疎通ができました。

クラスは A1.2 レベルでした。最初に現在完了形からスタートして命令形、助動詞なども学びました。大学の講義で既に行った文法事項ばかりでしたが、全てドイツ語で教えてもらうので難易度はかなり異なるなと感じました。最初の1週間はドイツ語での授業は2割ほどしか理解できませんでした。ですが、最終週には8~9割方理解できるようになっていたため、自分の成長を感じることができました。休み時間には同じクラスのメンバーがたくさんお菓子をくれました。私は英語が話せなかったのですが、積極的に話しかけてくれたり、自国の文化を教えてくれたことが嬉しかったです。特に印象的だったのは、スペイン人の友人が「ヨーロッパ文化を勉強しているなら、面白いと思うよ」と YouTube でフラメンコやヨーロッパで有名な歌手のロザリアを見せてくれたことです。大学で学んでいるヨーロッパ文化は建築や文学など古くからある芸術ですが、ポップカルチャーに焦点を当ててヨーロッパを見たことはなかったのですごく興味がわきました。また、日本語を教えてあげたり、その他の言語を覚えてもらったことによってドイツ語・英語以外にも勉強してみたいと思うようになりました。他国の人と話してみても驚いたことは、少なくとも2言語以上話せる人しかいないことです。全員必ず英語は話せますし、母国語+もう1言語話すことのできる人が多かったです。実際に留学をしてみて、英語の重要性はより強く感じました。英語を話すことができれば、コミュニケーションをとれる人が格段に増えますし、それによって今まで自分の中になかった考え方を学ぶことのできるきっかけになると思います。帰国して真っ先に思ったことは、まず英語を話せるようになろうということです。これは私の今後の課題にしていこうと思います。

元々知人から、ドイツはそこまで治安がいいわけじゃないと聞いていたのですが、そのようなことはなく本当に暮らしやすい町でした。地下鉄・路面電車・路線バスなど交通手段もたくさんあり、移動手段に困ることはありませんでした。飲食店の店員さんも優しい人が多く、「どこから来たの?」などと話しかけてくれたりもしました。ただ、美術館の受付の方はどこに行ってもあまり親切ではなかった印象があります。総じてすごくいい場所だなと思ったので、もう一度ドイツへ行こうと思っています。

1ヶ月ドイツの学校に通ってみて、外国の人たちの積極性に刺激を受けました。私の知っている授業はみんな静かに座って、板書を写すものですが、外国の人たちはわからないことがあったらいつでも自分から質問をしていました。毎授業とても賑やかで楽しかったです。いつでも自分の意見を臆さず言えること、間違いを恐れずに発言することは私が身に着けるべきスキルだなと感じました。

今後の目標は、長期目標として英語を話せるようになること、短期目標として日本語教員の資格を取ることを設定しました。海外の方と話してみても、日本や日本語に興味を持っている人が多いことが分かりました。それをより多くの人に伝えられる方法として日本語教員になることを考えました。また、様々な国の人と関わることで、異文化理解も進むと思います。残り2年の大学生活中に日本語教員になるための授業をすべて履修し、試験を受けたいと思っています。短い期間でしたが、今後の課題や目標を見つけられた濃い1か月になりました。この経験が無駄にならないよう、勉強は怠ることなく続けていこうと思っています。